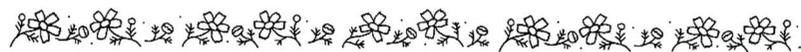




地域子育て支援だより

ぴよぴよつうしん



2024年 9月19日発行 葛西めぐみこども園

日中はまだまだ暑い日が続きますが、朝夕は過ごしやすい気候になってきましたね。夏の厳しい日差しが和らぎ、吹く風に秋の匂いを感じる今日この頃。外に出て周りを見渡すと、少しずつ自然が秋の景色に変化してきています。涼しい日には散歩に出かけ、ぜひお父さまと一緒に小さな秋さがしを楽しんでみてください。ゆっくり観察しながら歩いてみると、今まで気づかなかった意外な発見があるかもしれません。小さな発見をすることは、実は大人よりこどもの方が得意です。こどもの感性を大切にしながら、季節の自然や食べ物、行事に触れて、秋の楽しさをたくさん味わってみましょう。

お月見ってなあに？

○中秋の名月の頃、作物の収穫を祝い、神様に感謝するお祭り

月の満ち欠けを基準に生活していた頃、旧暦の8月15日(今年は9月17日)の満月の晩に、収穫したばかりの作物を供えてこの一年の豊作を感謝し、翌年の実りを願う行事が行われていました。お月見は江戸時代、庶民の間に広がりましたが、ただ月を眺めるのではなく、収穫祭や初穂祭という意味合いが大きかったと言われています。

○お月見の飾りは秋の実り

・秋の七草

ススキ、キキョウ、オミナエシ、フジバカマ、ナデシコ、クズ、ハギ

・月見団子

満月に見立てた白い団子を十五夜にちなんで15個、あるいは12ヶ月にちなんで12個供える。

・秋の野菜と果物

この時季に採れたイモやクリ、カキ、ブドウなど。

・お菓子

満月をまねた中国の月餅というお菓子や、どら焼き、うさぎまんじゅうなど。



こどもが泣くのには理由がある!

0歳：「泣く」は生理的なこと。快・不快を表し、泣いて声帯を鍛える。

0歳は「動物から人間になる時期」。生理的な行動で、呼吸をするためにも泣きます。泣くことで声帯を鍛え、どのくらい大きな声が出るかを自分で確認し、「この声が出ればママが来てくれる」と分かるように。初期は快・不快を表すためだけに泣きますが、5、6ヶ月ではママへの甘え、7ヶ月以降は人見知りでも泣くようになります。

1～2歳：「イヤイヤ泣き」開始。主張するために泣く。

「イヤイヤ泣き」が始まるのは1歳半頃から。自分の主張のために「対親」で泣きます。自立期でもあり、ひっくり返ってギャーギャーと泣くことも。これも「かまって」「抱っこして」などの自己主張から来るものが大半です。本当にダメなことは泣いてもきちんと教え、甘えたくて泣いているならギュッと抱っこをしてあげましょう。

3～4歳：集団に入っていく時期。「対集団」「対友だち」で泣くように。

集団に入っていく時期になり、今まではママや大人に対して泣いていたのが友だちに対して泣く方が多くなります。こども同士で「遊びたいのに仲間に入れてくれない」「自分の方が先だったのに」などケンカをすることも。

5～6歳：泣くことを我慢できるように。泣く理由も話せる。

この頃は「泣く」ことを我慢できるようになり、コントロールが利くようになります。泣く理由も話せるようになります。あまり泣かないこどもには、「泣きたいなら泣いてもいいんだよ」と言ってあげても良いですね。

半面、心の揺れが大きくなる時期でもあります。ママが精神的に不安定だとそれを察するようになるので、ドンと構えていてあげましょう。



◎泣いているこどもに接するときのポイント

- ・こどもの話を最後まで聞く
- ・泣いているときは落ち着くまで待つ。

こどもの気持ちを受け止め、きちんと最後まで話を聞くようにしますが、無理に泣き止ませようとせず！そうすればこどもは「聞いてもらえた」「話してよかった」と思うかもしれません。こどもによって泣く理由はそれぞれ違いますが、無理に泣き止ませようとせず、抱きしめたりそばについて見守ってあげたりしてあげると良いですね。